

重誓寺報

第27号 平成26年2月発行

浄土真宗 本願寺派 (西本願寺) 重誓寺
じゅうせいじ

大阪市旭区中宮2丁目4番19号
電話・FAX 06(6951)0090

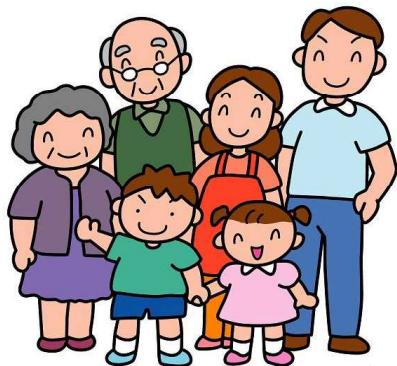


年末になると、その年の流行語大賞が発表されます。昨年(しんねん)は四つの言葉が選ばれました。確かにどれも流行った言葉でしたし、皆さんもよく耳にされたことだと思えます。しかし、いくら流行った言葉でも、発表される頃にはあまりにも使われ過ぎたため、今更(いまさら)使うのが気恥(きぢ)ずかしい感じもします。今の流行と言うのは、せいぜい数ヶ月で変わってしまうと言えるでしょう。

その反面、古くから伝わる言葉や出来事の中には、風化(ふうか)せず語り継がれているものが数多くあります。まさに仏教(ぶつこう)というものは、お釈迦(しやくか)様が説かれて以来、すでに二千五百年以上が過ぎても、その教えはほとんど変わら(かわ)らずに伝えられて来(こ)ました。それはお釈迦(しやくか)様の教えが、お経(きやう)という形で残(のこ)され、抛(な)り所(ところ)がはつきりしているからだと言(い)えます。

かつてあるバラエティ番組(ばんぐみ)で、「今まで一番読(よ)まれたお経(きやう)は何(なに)?」というコーナーがあり、「仏説阿弥陀經(ぶつせつあみだきやう)」が一位(いちい)に選ばれていました。何を(なに)もって判断(はんぱん)されたのか分かりませんが、その真偽(まご)は定(さだ)かでありませんが、その内容(ないよう)が決して陳腐(ちんぷ)になることなく、どの時代(じだい)にも受け入れられてき(こ)からだと思(おも)います。

仏教(ぶつこう)は「年寄(としよ)りのもの」という声(こゑ)を聞くこと(こと)があります。先人(せんじん)たちから間違(まちが)いなく伝えられてきたその教え(おしえ)は、どの時代(じだい)でも、老若男女(らうじやくなんにょ)どんな方(かた)にも流行(りやう)り廃(はい)れは(は)りません。ですからそれ(それ)を聞(き)くのは「そのうち(うち)に」ではなく、まさに「今(いま)でし(し)ょう」



ご家族皆さんでお読み下さい

法座のご案内

重誓寺では毎月、二十日

(三、五、九、十一月は二十日、二十一日)

法座が勤まります。

勤行約三十分、法話約一時間

浄土真宗にとって一番大切なことが、
仏法を聞くこと、いわゆる聴聞であります。
皆様お誘い合わせの上、お参り下さい。

常例法座

二月二十日(木) 二時、七時

講師 義本 弘導師

春季永代経法要

三月二十日(木) 二時、七時

二十一日(金) 二時

講師 味府 浩子 師

常例法座

四月二十日(日) 二時、七時三十分

講師 藤岡 良治 師



お寺にお参り下さいとご案内しても、なかなか入りにくいこともあるかと思えます。少しでもお参り頂けますよう、重誓寺での法座をご紹介いたします。

お参りは椅子席ですので、正座ができません。数珠と経本をお持ち下さい。お持ちでなければお貸ししたりお分けすることもできます。ご懇志を納めて頂ける方は、本堂内の帳場までお持ち下さい。

まず皆さんと一緒に勤めをします。

お経は月によって変わりますが、ゆっくりですので、すぐにご一緒にお勤め頂けるようになりますかと思えます。

その後、ご講師による法話があります。先生によって雰囲気も違いますので、決まった月だけでなくお参り下さい。

法座はどなたでもお参りいただき、大切な仏法を聴聞して頂ける場です。お忙しければ、お休みの日や、夜だけでも結構ですので、是非最初の一步を踏み出して下さい。



親鸞聖人のご生涯

⑧ 熊野霊告

親鸞聖人が京都に帰られてからは一カ所に長く住むことをされず、転々と移住しておられました。

聖人が五条西洞院のあたりに居られたときのことです。関東で縁のあった門徒たちが訪ねてきました。その一人に平太郎という熱心な門徒がおりました。平太郎は、土地の領主の命によって熊野権現に参詣する役目を負わされます。

熊野参詣といえ、道中ずっと精進潔斎や物忌みなどをしなければなりません。そこで京都の聖人のもとを訪れ、「熊野詣ですることは、念仏者として間違いではありませんか。」とたずねます。聖人は、「念仏者である以上は、たとえ熊野権現にお参りしても、精進潔斎や物忌みなど、特別なことをする必要はなく、ありのままの姿でよろしい。」と訓示されたのです。聖人の教えを守り熊野に参詣した平太郎は、夢の中で、不浄の体で参詣したことを咎められます。そこに聖人が現れ「この者は親鸞の教えに従い、念仏申す者である」と伝えると、咎めた人は尊敬の態度を示したと言われています。浄土真宗の門徒は、土地につたえられて

きた神々に対してどのような態度をとるべきか。『聖人ご自身は、念現世利益和讃』で、念仏者には神からも尊敬され守られているといふ意味を述べ、また門弟への手紙の中にも、神をなじ意味あいから、神をあたどつてはいけなさとされてはいるものが残されています。世間の一般的なつき合いから神を侮つたり、軽んじたりすることはいけない、しかしあくまでも心から礼拝し、帰依するのは阿弥陀如来一仏であることを重ねて強調されたのでしよう。

その後、親鸞聖人は九十歳の往生を迎えるまで多くの和讃を著し、『教行信証』の加筆、訂正を重ねられました。



熊野権現に参詣した平太郎が、社殿でうたた寝している中で霊夢を感得しているところ

やしきたかじん追悼ライブ

RADIO HAAFUU LIVE



FUU
narrator

あの”やしきたかじん”さんが
亡くなりました。

いつもお世話になってる、
ナレーター”畑中ふう”さんは、
番組「たかじん胸いっぱい」で
1000回近いナレーションをされてきました。



MOTO
musician

ミュージシャン”打越元久”さんは、
たかじんさんの元お弟子さんです。

そこで勝手に追悼ライブをしてしまいます。
このお二人ならではのエピソードや名曲など、盛りだくさん。
たかじんさんにふさわしい、楽しいライブにしたいと思います。
是非お誘い合わせ、お越し下さい。

日時 2月16日(日) 午後3時開演

会場 重誓寺本堂にて

入場無料

「一緒に本願寺を参拝し
帰敬式を受けませんか？」

帰敬式ききようしき（おかみそり）を受けて、
法名（仏教徒としての名前）を頂きます。

日程…五月三十一日（土）

午前八時重誓寺 出発

日野誕生院（親鸞聖人生誕の地）

法界寺（日野家菩提寺）参拝

昼食

本願寺にて帰敬式

国宝書院、飛雲閣等見学

費用…帰敬式一万円

昼食・交通費五千元

午後五時頃帰阪予定

法名は全て「釋○○」です。

本願寺より当日頂きますが、

希望の法名があれば内願でき

ます。但し二ヶ月前締め切り

で、別途一万円が必要ですよ

ワゴン車で移動しますので、

募集は八名までとなります。

五月中頃までにお申し出下さい。

重誓寺 HP <http://juseiji.net> E-mail info@juseiji.net

寺報はバックナンバーを含め、ホームページでご覧いただけます。

ご意見、ご質問等がありましたら、メールでもお寄せ下さい。